

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかかえる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム桐の花
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	南魚沼市浦佐5141-5
記入者名 (管理者)	星野 淳子
記入日	平成 19 年 9 月 29 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中の「桐の花」を意識して理念を作り上げている。	○
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々、理念の実現に向けて取り組んでいる。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には、家族会や面会時、電話での相談等の機会に伝えている。運営推進会議では地域の代表者に伝えている。また、広報誌「桐鈴会」を配布することにより、地域の方への広報に努めている。	○ 理念を理解していけるような取り組みを検討していきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	一般家庭と同様に、気軽に立ち寄り、お茶を飲んだり、話をさせていただけるように声かけを行っている。また、施設で飼っている犬のチビ太も役立っている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	八色の森公園祭りや文化祭等に参加したり、隣接の夢草堂での催し物に参加した地域の方々との交流に勤めている。小学生のボランティア活動等も受け入れている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	日々のケアや申し送りの中で、この点について話し合っている。今年度は、共用型デイサービスの開所を通して、一人でも多くの認知症高齢者をお受け入れたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価項目を念頭に置きながら、改善できるよう努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ2ヶ月に1回実施している。施設の運営状況を報告したり、推進員の意見を求め、その内容を職員にフィードバックしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月1回、南魚沼市の地域サービス事業者担当会議に出席し、情報交換に勤めている。施設運営について、疑問や困ったことが発生した場合は、随時担当課と連絡を取り、相談や意見をもらいながらサービス向上に反映させている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	新聞やマスコミ等で該当内容が取り上げられた場合にはミーティング時に取り上げ、話し合う機会を設けている。	○	今後勉強会を実施したい。また、外部研修会が実施される場合は、職員代表を出席してもらい、理解に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常日頃、グループホームのケアはともすれば、密室化しやすいという事。職員が倫理観を明確に持たないと、知らぬうちに虐待していたという事になり易いと説明している。また、マスコミで該当事例が発生した場合には、新聞記事等を基にミーティング時に話し合いしている。	○	今後勉強会を実施するべく検討中。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけてゆっくり説明するが、1回の説明だけでは、なかなか分かり難い為、面会等の機会あるごとに説明している。不安や疑問等がありそうな様子がある場合には、電話等により説明機会を設けたりする事もある。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会あるたびに、利用者に話してもらえよう言葉かけを行っている。また、ご家族面会時に利用者と一緒に話せるように配慮を行っている。また帰宅時に、ご家族とも話し合える機会を作っている。	○	社会的に自分の意思を表明できにくい世代の方々であり、今後も、毎日の生活やご本人の何気ない言葉の中から、利用者のニーズをつかみ取る努力を行って生きたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に日々の生活状況等を具体的に説明している。随時、電話での連絡を行い状況報告および、ご家族の意見や意向を伺っている。必要であれば、地元在住ご家族には、自宅訪問も実施する事もある。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議への参加により、家族の声を聞く機会を設けている。その内容を職員にも伝達している。ケアカンファの際にも、必ずご家族の意向・意見を確認している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り時やケア会議・職員会議で意見や提案を聞く機会を設けている。日常的な職員同士の会話の中にも、良い提案や気づいたことが多い為、意見活用を行っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員配置基準を若干上回る状態で配置している。利用者の状態変化や緊急対応時については、超過勤務体制で必要人員を確保している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ、職員異動はない。勤務表作成時に、(利用者処遇に影響のない範囲で)職員の希望を取り入れ、勤務しやすいシフトにしている。勤務変更も支障ない範囲で柔軟に配慮している。		
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	標準マニュアルは整備しているが、定期的見直しはなかなか実施できていない。	○	職員と分担しながら、実施できるよう努力したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた育成計画はないが、日々のケアの中で(実践を通して)、個々の職員の能力に応じたコメントや実技指導を行っている。	○ 育成プログラムの作成を検討している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	旧三魚沼地域の同業者との交流会を定期開催し、情報交換に努めている。また、同業者の実習も積極的に受け入れている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務シフトへの配慮や、声掛けやコメント等において配慮している。	○ 運営者に主任会議等の席で、この点について理解していただける様に説明していきたい。しかるべきスーパーバイザーが欲しいと考えている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	状況把握に努め、意欲を持って勤務できるよう努力している。	○ 外部研修会への参加、及び職員異動等を視野に置き取り組みたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアの基本はいかに信頼関係を築けるかであり、その為には、利用者寄り添い、十分に話をきく姿勢が重要である。その努力は行っている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者・ケアマネの事前家庭訪問等により聴く機会を作り、努力している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービ ス利用も含めた対応に努めている	入所判定の時点で、見極めている。 (グループホームの評価項目として内容が妥当かどうか?)	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫している	(グループホームの評価項目として妥当かどうか?) 今後、共 用型デイサービスを実施予定のため、待機者にはデイサー ビスを利用することでグループホームになじめるような取り組 みを考えている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活を共にすることで、ご本人から学んだり、支えあう 関係を築いている。特に、調理や行事的な事、畑の野菜づく り等においては、利用者の教えが役立っている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えて いく関係を築いている	ご家族の面会状況がよく、職員との会話も豊富であり、日々、 喜怒哀楽を共にし合える関係が築かれている。機会在れ ば、ご家族及び親族の宿泊も喜んで受け入れている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	面会時や電話での情報伝達等を通して、両者が良い関係を 保てるよう支援している。家族会や行事への参加等も参加要 請している。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努め ている	支援に努めている。隣人の面会時には、ゆっくり面会できる ようお茶等を出している。また、地域の馴染みのお店や美容 院等に行ける様配慮している。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合え るように努めている	利用者が自由に交流しあえるよう見守っている。また、利用 者同士の状態により、話題を提供したり、仲を取り持ったり している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	行っている。先日も、特養へ施設換えした利用者のご家族が遊びに来てくれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位となるよう検討しており、ご本人の意思確認が困難な場合は、日々のケアの中で模索したり、ご家族に意見を求めたり努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の面会状況がよく、職員との会話も豊富であり、日々、喜怒哀楽を共にし合える関係が築かれている。機会があれば、ご家族及び親族の宿泊も喜んで受け入れている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別の生活記録をつけたり、状況を申し送ることで把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現在、利用者の状況により、ケア会議に訪問看護師やSTにも参加してもらい、意見を反映した介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行っていると共に、利用者の状況変化に応じた見直しを適宜、柔軟に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<input type="checkbox"/> 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫の内容を個別記録に記入している。必要により、センター方式の様式を使用し、さらに細かな記録を取り、ケア計画に活用している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<input type="checkbox"/> 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小規模の利点を生かした柔軟な支援を行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<input type="checkbox"/> 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	協力しながら支援している。	
41	<input type="checkbox"/> 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ、他のサービスが必要な方は出ていない。その可能性ある方には、必要な支援・説明は行っていく姿勢は持っている。	
42	<input type="checkbox"/> 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進員のメンバーとして、おおよそ2ヶ月に1回参加していただき、意見や相談を行っている。	
43	<input type="checkbox"/> かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の病状により、定期往診を受けている。また体調・病状変化時は、臨時往診を受けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の指示に従い、必要性あれば支援を行う。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	萌気園訪問看護ステーションと医療連携している 利用者の健康状態や病状変化について、多少にかかわらず、不安に感じる内容はすべて気軽に相談し、意見や支持を貰っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	サービス計画作成担当者を中心に病状伺いを行い、病院関係者との情報交換を行っている。退院時カンファは該当者ある場合は行っている。必要時訪問看護師にも参加依頼している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に至る前から園の看取りの方針について機会在る事に説明を行っている。実際、該当した場合は、蜜に連絡機会(電話、来園依頼時)を設け、説明を行い、利用者・ご家族の意向確認を行っている。必要時は、医師により説明も行ってもらう		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	該当者出た場合には、医師・訪問看護師との連携を密にし、チームアプローチを心がけている。またご家族の協力無しにはできない為、ご家族にも細かに連絡行い、ケアカンファにも参加してもらっている。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在のところ、1ケースの該当があつたが、ケアマネを中心に、情報交換を行い、住み替えによるダメージを最小限にする努力を行った。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーについては特に注意している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	年齢的に、自分の希望を自己表出しにくい方たちのため、日ごろの会話や行動等から推測したい王行っている。意思表示明確な方にはその都度意思確認している。また、ご家族来所の際にご家族から代弁してもらっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを可能な限り配慮している。その日をどう過ごしたいか、利用者を確認しても希望表出少ない為、日ごろの利用者の行動や会話の内容から推察して支援している。食事時間は個別対応している。時間帯や内容によっては対応しにくい場合もあるが、職員同士の連携により柔軟に対応できるよう配慮している。	○ 定期的ボランティアの協力を得られるよう検討したい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理容及び、なじみの美容室の利用ができるよう配慮している。ご本人の要望を聞きながら要望に沿う形で行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みを大切に、食事が楽しめるよう配慮している。また、利用者の個性や能力に応じて、食材の下ごしらえ、茶碗ふきなどのお手伝いに参加していただく。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	大切にしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄ケアは、一人一人の排泄リズムを理解していないとできないため、特に注意している。また、便秘が在る利用者については、訪問看護と連携しながらケアにあたっている。個々の利用者の実態に合わせリハビリパンツ・パット使用を使い分けている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜を除く毎日午後から行っている。1日おきに入浴して頂きたいが、その日の利用者の精神状況や行事等の兼ね合いで、柔軟に対応している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して気持ちよく睡眠が取れるよう配慮している。眠れない方には、時には、茶の間に話し相手になったり、飲み物を提供したり個々の利用者の状態にあった対応をしている。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の状況に応じた対応を行っている。特に食事の下ごしらえや洗濯たみ等の家事が主体である。利用者によっては、手芸や貼り絵等や散歩等の個々に応じた内容で支援している。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	理解はしているが、現在被害妄想がある方がいる事や、他の利用者の不安材料となる為、小銭程度所持している程度である。通常は事務室管理で預かっており、買い物時に携帯することもある。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の良い時期や晴天時は、戸外で日光浴や散歩が楽しめるよう配慮している。日曜の天気の良い日は、ドライブ等も行っている。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が高齢化しているが、可能な限り機会を作り、支援している。また必要により個別に対応している。ご家族にも外出・外泊はいつでも可能と説明してある。	○ 利用者の状況を見極めながら、少しでも個別にたいおうしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者・ご家族の要望により携帯電話使用している方もいる。ご本人の要望あれば、はがき等の購入や代筆等も行って。ご家族からの電話も時間帯にかかわらず取り次いでいる。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるよう配慮している。来客訪問時の職員対応 茶菓の接待等には気をつけている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。	○ 具体的項目について勉強会実施する予定。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間から早朝にかけての一般家庭の施錠時間帯以外は施錠していない。居室は、施錠することはない。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーの配慮については、ケアの基本であり、十分配慮している。当日勤務職員が、利用者の所在を絶えず把握しながら勤務している。また職員同士が互いに声かけあいながら、自分の担当利用者を明確にし、ケアを行っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手洗い用の石鹸、うがい薬、食器洗用洗剤以外は、目のつきにくい所や手の届かない所に保管している。また、ストック用の洗剤等は、鍵のかかる保管庫にストックしている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやり・ハットを記入し、反省材料にしている、また、他の職員にも気をつけてもらえるよう、読むことを義務付けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回の訓練時に救急法について学習している。また、ひやり・はつとの記入により、どのような事故が起きているか、職員が「どう対応したか」記入し参考にしてている。利用者の状態により、リスクを想定し、その都度、職員に伝達している。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練実施している。災害伝達系統図に協力員の電話番号も掲載している。避難訓練実施時は、地域協力員も駆けつけている。	○ 主に火災訓練が主となっているため、今後は様々な災害を視野に入れた訓練を実施したい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族には入所時に、利用者の状況に変化あった時点で直ちに電話連絡・説明を行う旨伝えてあり、実際細かな連絡・説明を行っている。また、対応策についても説明し、理解していただける様に細かな説明を心がけている。必要時は、福祉用具等の購入もお願いしている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常時利用者の体調変化や異変の発見には、細心の注意を払っている。状態変化予測される場合は、バイタルチェック実施し、個人記録への記載、申し送り等により引継ぎ、医療とも連携している。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の種類多いため、個人ごとの処方箋をファイルしており、参考にしてている。また不安・疑問ある場合には訪問看護師や主治医と相談しながら服薬の支援を行っている。処方薬変更時には、利用者の状態を観察し、変化が起きていないかなど注意している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる。野菜を使った料理は必ず取り入れている他「水分がきちんと取れるよう声掛け行っている。状況により、本人の嗜好に合わせた飲み物等を提供したりしている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者に声を掛け、うがいや義歯洗浄してもらうようにしている。自力洗浄困難者は、職員が洗浄し、就寝前はほとんど全員の義歯消毒を行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態把握に配慮している。チェック表をつけている。体調不調時や状況把握の必要ある場合は、別に個別のチェック表を作り、細かいチェックを行うことがある。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	取り決めてある。	○ 日々注意できるよう、再確認していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生には注意している。新鮮な食材の購入を行っている。食材は、賞味期限の切れたものは廃棄している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、鉢花をつくり、雰囲気づくりに勤めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	切花や鉢花を飾ったり、写真や季節の絵などを飾り、季節感が感じられ、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や洗濯干し場にソファを設置し、自由に利用している。利用者の状態により、一人で外へ散歩に出て楽しむ方もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室については、持ち物制限は行っておらず、自由に使用してもらっている。ご本人・ご家族の意向による居室となっている。職員側で不足品がある場合は、ご家族に相談の上持参していただくこともある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	夜間帯は居室でポータブル使用する方が多い為換気に注意している。各居室の温度差がある為個別にエアコンの調節を行っている。		
換気				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫してある。また、福祉用具も個々の利用者に適したものを使用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱や失敗を起こさぬように工夫している。日々の病状や精神状況により、変化あるため、その時々に応じた支援を行えるよう柔軟に対応している。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	活かしている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	③たまにある
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)